オーディオ実験室収載

TruPhase の活用(4)
—音源の位相確認(4)—

１．はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(3)に引き続き CD の位相確認を行います。

２．TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(1)では、下記経路による CD 音源の位相確認を行いました。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

前報(3)では、次の経路で CD 音源の位相確認を行いました。

SA11-S2(GPS-777 よりクロック入力)→CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

今回は、次の経路で CD 音源の位相確認を行います。

47 研 4716→ CCV-5(GPS-777 よりクロック入力)
→Brooklyn DAC+(LINE 入力)→TruPhase→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、音源の位相チェック実験(30)で使用したバッハのヴァイオリンの作品で下記のとおりです。

ドイツグラモフォン 4855219 結果：正相
J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集
ヒラリー・ハーン(Vn)／ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内オーケストラ

harmonia mundi HMM92335-6
J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集 結果：正相
イザベル・ファウスト(Vn)／ベルリン古楽アカデミー

PHILIPS UCCP-1114
J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集 結果：正相
諏訪内晶子(Vn・指揮)／ヨーロッパ室内管弦楽団

さらに以上に加えて下記を試聴しました。

DENON COCQ-87998
J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集 結果：正相
日下紗矢子(Vn))／ベルリンコンツエルトハウス室内オーケストラ

DECCA UCCD-9863
J.S.Bach ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集

アリチュール・グルミヨー(Vn)　クリスチアーヌジャコッテ(チェンバロ)

３．TruPase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうかが焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

ヒラリー・ハーン盤は、位相反転させると定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと録音が新しいだけあって、ヒラリー・ハーンのヴィヨームの音色が爽やかで躍動的な演奏です。

イザベル・ファウスト盤は、位相反転させると定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと録音が新しく、イザベル・ファウストのガット弦らしいのヴァイオリンが、バックの古楽アンサンブルから浮き出てきます。

諏訪内晶子盤は、位相反転させると定位が曖昧になり、過度の広がり感が出てきます。位相反転させないと録音が新しいだけあって、諏訪内晶子のストラディヴァリウスのくっきりとした音色が鮮やかです。

日下紗矢子盤は、位相反転させると定位が曖昧になり、過度の広がり感が出てきます。位相反転させないと録音が新しいだけあって、日下紗矢子とベルリンコンツエルトハウス室内オーケストラは何回か生の演奏を聴いていますが、その歯切れのよい演奏の印象が再現されています。

グルミヨー盤は、位相反転させるとヴァイオリンとチェンバロの定位が曖昧になり、音像が過大になります。位相反転させないと中央に定位し、音の焦点があってきます。

DECCA 盤は逆相が多いのです、元は PHILIPS のアナログマスターのようで、同じ演奏の PHILIPS のアナログ盤と同じく正相と考えられます。

４．まとめ

TruPhase での位相反転と Brooklyn DAC+での位相反転の結果は、すべて録音が新しく、音源の位相チェック実験(30)と同様の傾向になることが分りました。追加の日下紗矢子盤とグルミヨー盤はともに正相であることが分りました。

以上